

## インターネット(WebCT)を活用した医療倫理学教育

丸山, マサ美  
九州大学医学部保健学科

井上, 仁  
九州大学情報基盤センター

大喜, 雅文  
九州大学医学部保健学科

<https://doi.org/10.15017/3242>

---

出版情報：九州大学医学部保健学科紀要. 4, pp.81-84, 2004-09. 九州大学医学部保健学科  
バージョン：  
権利関係：

# インターネット (WebCT) を活用した医療倫理学教育

丸山マサ美<sup>1)</sup>, 井上 仁<sup>2)</sup>, 大喜 雅文<sup>1)</sup>

## On-Line (WebCT) Bioethics & Medical Ethics Education for University Students

Masami Maruyama, Hitoshi Inoue, Masafumi Ohki

### Abstract

From October 2003 to February 2004, a 15-week-long online Bioethics & Medical Ethics education was conducted. Those who took as an elective course Bioethics & Medical Ethics at Kyushu University were mostly the first-year students.

The topics of the online (WebCT) course included the “principles of Bioethics & Medical Ethics”, “life and death issue”, “physician-patients relationship”, “respect for person”, and so forth.

A couple of instructors put the materials on the web, asked students to read them, and hold an achievement test, giving the only one question to be answered within a week. The lecture that combined the character, the voice, and the image with the one-sided lecture plan that had been held when current bioethics & Medical Ethics was educated, and used the online (WebCT) was executed.

KOO-Young-Mo educated students through the online called SNU (<http://webclass.snu.ac.kr>), using as educational software developed by the Center for Teaching and Learning. SNU has a web board for discussion, where students positively exchanged their opinions with each other. This experiment through the Web proved to be very useful. It is recommendable to make more use of WebCT in Bioethics & Medical Ethics education at Kyushu University.

KEY WORD : WebCT, online Education, Bioethics & Medical Ethics Education

### 緒 言

国際化にとって情報技術は、もはやなくてはならない手段となり、大学教育においても、衛星通信とインターネットに切り替え、これにDVDによる講義パッケージ配信を加えた複合メディア法授業へと展開させるまでに至っている<sup>1)</sup>。これまでの生命倫理、医療倫理学教育において行われてきた一方的な講義計画に対し、文字・音声・画像

を組み合わせ、また、インターネットを利用したeラーニングシステム WebCT を活用した講義 (以下、WebCT と称す) を実施した。

2002年11月、韓国ソウル大学で開催された第4回アジア・バイオエシックス会議において、KOO Young-Mo は、倫理教育にインターネット教育の有効性を報告した<sup>2)</sup>。

その内容は、2001年・2002年ソウル大学病院

1) 九州大学医学部保健学科  
2) 九州大学情報基盤センター

に新規採用されたインターンを対象にインターネット (遠隔教育および講義) を用い、特に、オンラインコミュニケーション活動を通じるリアルタイムコミュニケーションが可能であるから、医療倫理学教育で活用されるグループディスカッション方法論が適切であるというものであった。

本稿は、本学における医療倫理学教育に WebCT<sup>3)</sup> を活用した講義内容および講義の特徴を報告すると共に、この学習方法による今後の医療倫理学教育のあり方を模索するものである。

## 方 法

本学において、医療倫理学は、医学部教育『医の倫理』、『医学概論』という専門科目でなく、一般教養として位置づけられた。

平成 15 年後期、本学で初めて医療倫理学が開講された。選択科目であったが、全学教育に位置づけられ、平成 15 年度受講生は、医学部医学科、法学部、工学部物質科学工学科、農学部生物資源環境学科、経済学部経済・経営学科、文学部人文学科の学生 29 名、6 学部に渡った。

WebCT (online) による予習・復習システムは、授業計画：Web ホームページ開設、予習：ホームページ上の参考文献を参考、講義：配布資料・パワーポイントを使用した講義、講義終了後 (時間指定)：「確認テスト」による講義内容の理解 (○、×形式) とした。「確認テスト」は、履修届けに基づき、ID、パスワードを学生に配布し、その作業の流れとしては、講義終了時から、次の講義開始までに、「確認テスト」アクセス期間を設

定した (図 1 参照)。

また、講義の特徴として、複数の学部に渡る受講生の特徴を知るために、講義初回、自由記述による医療倫理学 (講義) 選択の動機化を求めた。10 月 27 日 (講義 3 回)、WebCT を用いた確認のためのテスト (以下『確認テスト』と称す) 利用に必要な学生 ID とパスワードを配布した。11 月 10 日 (講義 4 回)、Web 操作状況の確認を情報基盤センター教員と協力し行った。12 月 8 日 (講義 7 回) スモール・グループディスカッションを開始した。また、冬休み中の課題として、12 月 22 日 (講義 9 回) 生命倫理に関する英語文献 “The Belmont Report :Informed Consent, Source Book in Bioethics. EDITED BY Albert R. Jonsen, Robert M. Veach, Leroy Walters, GEORGETOWN UNIVERSITY PRESS. pp.25-26, 1988)” を配布した。翌年の 10 回目の講義時には、ほとんどの学生が和訳を提出した。講義内容の実際については、表 1 の通りである。最終回まで、遅刻者、欠席者なく、講義終了直後の質問も活発であり、学生の熱意が感じられた。現在、表 2 に示す通り、九州大学開講部局とコースにおける WebCT の利用事例は、準備中の部局を含み増加傾向にある。

本学において初めて開講された医療倫理学において、WebCT というツール (図 2 参照) を用い、学生の自主的なオンライン教育を旨とした。具体的には、先に報告したように学生個々人の予習・

表 1 授業計画と進行

第 1 回	10 月 6 日	医療倫理と生命倫理
第 2 回	10 月 20 日	人の誕生
第 3 回	10 月 27 日	子供 *truth-telling
第 4 回	11 月 10 日	青年 *informed consent
第 5 回	11 月 17 日	医療における倫理と実践
第 6 回	12 月 1 日	患者の死
第 7 回	12 月 8 日	生命の終末期
第 8 回	12 月 15 日	医療と法律問題
第 9 回	12 月 22 日	倫理教育
第 10 回	1 月 7 日	医療専門職の発展
第 11 回	1 月 19 日	患者を守る視点から
第 12 回	1 月 26 日	人間の尊厳
第 13 回	2 月 2 日	総括/後期試験について

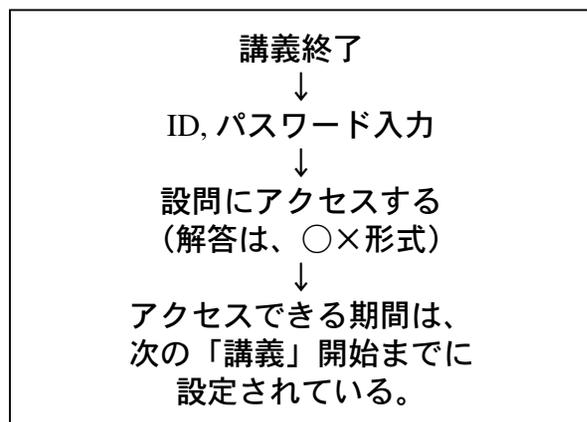


図 1. 確認テストの作業の流れ

表2 利用事例

開講部局	コ	ー	ス
全学教育	医療と社会, 医療倫理学, ネット時代の情報センス, ドイツ語入門		
医学部 (保健学科)	社会福祉, 社会福祉演習, 医療情報処理学, 医療統計学, 解剖学実習, 基礎看護技術学, 看護学概論1, 看護過程, 助産管理, 臨床看護実習, 臨地看護実習(外科), 成人臨床看護(外科系), 助産診断学演習, 医学放射線物理学, 病原細菌同定演習, 助産診断技術学演習		
医学部 (医学科)	人体構造概論, 代謝生化学, 侵襲医学, 免疫学, 免疫・移植の臨床, 公衆衛生学, 内分泌・代謝, 分子医科学, … (全64コース)		
農学部	応用昆虫学, 生物統計学, 動物生産環境学, 水産環境学, 生活環境管, 理学2, 水産環境造成学特論, 生態系の構造と機能		
工学部	情報処理概論, 制御系CAD, 回路設計論		
留学生センター	日本語, Linguistic Description of Japanese, G-6, O-6		
情報基盤 センター	情報倫理, コンピュータ入門コース, 情報セキュリティ講座, 情報倫理ビデオ教材, 教育用システム利用法, WebCT支援・関連情報, WebCT入門(学生としての利用, 教材作成, テスト・アンケート機能)		

※準備中のものも含む

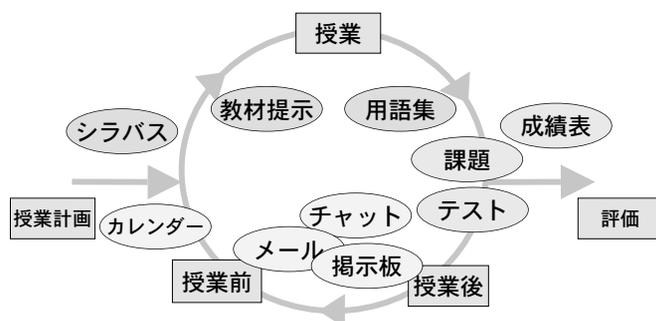


図2. WebCTのツールと授業における適用

復習システムの確立を行い、自主的に学習可能なシステムを立案した。学生は、あらかじめ開設されたWebホームページ上の授業計画を確認し、ホームページ上の文献紹介を参考に予習を行った。講義は、ホームページに示したテーマに添った内容が行われ、講義時には、関連のビデオ、配付資料、パワーポイントを使用した説明等、視覚・聴覚で確認できる教材を用いた。

学生は、講義終了直後から、『確認テスト』を受け、講義の理解を確認した。問題は、マル(○)バツ(×)形式の設問が1問用意されており、学生の負担にならないものとした。特に、解答時間をあらかじめ講義終了直後から、次の講義開始までの1週間以内と設定した。ほとんどの学生は、アクセス方法にトラブルなく自主的に実施できていた。その正解については、講義開始時に説明した。

## 結果・考察

インターネットを活用したオンライン教育の利点は、何だろうか。

早稲田大学<sup>4)</sup>は、情報化と国際化に邁進する理由として、「教育研究のオープン化」の原則を提示している。2004年4月に発足した遠隔教育センター事業すなわち、オンデマンド型授業や海外との共同授業の推進をはじめ、専門大学院に関するプログラムの遠隔教育化、日本語教育講座の海外配信、高校生を対象とした遠隔式導入教育の開発、そして資格関連科目や教養科目の遠隔配信など、「生涯学習のための仕組みづくり」が計画されている。

本学における医療倫理学教育においても、その実現は可能である。

KOO Young-Moは、インターネットを活用したオンライン教育の利点として、1. 時間と空間の制約を乗り越えることができる、2. 教育費が比

較的安価である, 3. 学習者が自分の水準と進度に合わせて教育課程を進行することができる, 4. インターネットを通じて多様な参考となる事項・関連情報を捜してみることができる, 5. 教授陣, あるいは, 同僚たちとのフィードバックが可能であることを提唱した。また, その中でも, この方法論の有効性の証明として, 医療倫理学教育の倫理的葛藤の解決に役立つ度合いについて, インターンを対象に行った 2001 年および 2002 年の比較調査の結果, インターネットを活用したオンライン教育が医療倫理学教育に有効であることを示した<sup>5)</sup>(表 3 参照)。

### 結 語

日本における生命倫理・医療倫理学教育にオンライン教育を確立した体制の中で導入している大学は少ない。

今回, 本学における医療倫理学教育においては, 初年度であるためインターネットを活用した電子掲示板は, 準備にとどまり, 実際に使用していない。今後, WebCT ツールと授業におけるオンラインコミュニケーションの利点・欠点を深く考え, 生命倫理・医療倫理学教育にオンライン教育を積極的に取り入れていく必要がある。

### 付 記

本稿は, 平成 16 年 3 月 27 日, 九州大学法学部で開催された第 20 回西日本生命倫理研究会の報告「Bioethics 教育の希望の源泉—全学教育『医療倫理学』講義の経験から—」における発表原稿に加筆・修正したものである。

表 3 倫理的葛藤解決に役立つ度合い

選択肢	2001年	2002年
	n=17	n=65
非常に役に立つ	2 (12)	4 (6)
役に立つ	8 (47)	19 (29)
普通	7 (41)	34 (53)
役に立たない	0	8 (12)
全然役に立たない	0	0

### 引用文献

- 1) 白井克彦編著, 早稲田大学世界への飛翔, 東洋経済新報社 pp.153-174, 2003.
- 2) KWON Ivo, KOO Young-Mo, An Experience of On-Line Medical Ethics Education for Hospital Interns, Korean Journal Medical Ethics Education 5(2), pp.129-141, 2002.12.
- 3) 井上仁, 多川孝央, eラーニングシステム-WebCT-の紹介, 九州大学情報基盤センター広報, Vol.2, pp.119-130, 2002.
- 4) 前掲書 1. P.172.
- 5) 前掲書 2. p.138, 2002. 12.

### 参考文献

1. 松岡一郎, いま最先端の研究がおもしろい, 中央公論新社, 2003 年 12 月,
2. 松岡一郎, 早稲田大学デジタル革命, アルク, 2000 年 7 月,
3. 井桁貞義, 文学理論への招待—オンデマンド授業の実際と大学授業の新しい可能性—, 早稲田大学文学部, 2001 年 12 月,
4. 大喜雅文, 豊福不可依, 大池美也子, 平野(小原)裕子, 梅村創, WBT による保健学科教育情報基盤の構築, 九州大学医学部保健学科紀要, 第 2 号, pp.37 - 46, 2003.9.
5. 平野(小原)裕子, 大喜雅文, WebCT 利用状況と学習効果に関する研究—看護学生に対する「社会福祉コース」履修者のデータ分析から—九州大学医学部保健学科紀要, 第 2 号, pp.47 - 56, 2003.9.
6. 平野(小原)裕子, 大喜雅文, WebCT を使用した講義評価に関連する要因—看護学生に対する「社会福祉コース」履修者のデータ分析から—九州大学医学部保健学科紀要, 第 2 号, pp.57 - 72, 2003.9.
7. 大喜雅文, 小坂克子, WebCT による解剖学実習試験の作成と実施, 九州大学医学部保健学科紀要, 第 3 号, pp.63 - 70, 2004.2